

科目名称：	保育実習Ⅱ	
担当者名：	村上 知子、石野 友子	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	実習	2
授業の目的・テーマ		
1. 学びつつある保育の理論と実践との統合をねらいとし、子どもの主体性を促す保育援助に必要な実践的知識・技術の習得を図る。 2. 保育全般に関する実践的側面についての理解を得、目指す保育者像を探る。 3. 保育士資格の取得を図ることを前提に、保育者としての使命感を醸成する。		
授業の達成目標・到達目標		
1. 保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。 2. 子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して保育の理解を深める。 3. 既習の教科や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び保護者支援について総合的に学ぶ。 4. 保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深める。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。 6. 保育士としての自己の課題を明確化する。		

幼児教育学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	自己理解を深め目標に向かって主体的に行動するとともに、多様性を尊重し、子ども・保護者・地域住民との良好な信頼関係を築いていくことができる。	
DP(2)	保育・幼児教育を取り巻く様々な問題に取り組み幅広い教養を身につけるとともに、変化する社会に対応するための協働的な実践力を身につけている。	
DP(3)	保育・幼児教育の分野において、基礎知識を身につけるとともに、使命感、倫理観、責任感をもって専門的な知識や技能を修得し、これらを柔軟に活用していくことができる。	○

評価方法/ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
幼児教育DP(1)					0
幼児教育DP(2)					0
幼児教育DP(3)				100	100
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の实務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	《内容1》保育士	《経験年数1》（村上）8ヶ月
	《内容2》幼稚園教諭	《経験年数2》（村上）20年・（石野）22年
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》

備考

到達目標ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
実習事前準備	年齢、季節に合った教材等が準備されている。	年齢に合った教材等が準備されている。	教材等が準備されている。	教材等を準備する努力が見られない。
指導	ねらいに沿った環境構成、活動、援助・留意点を元に子どもにわかりやすく指導出来る。	ねらいに沿った環境構成、活動、援助・留意点を元に指導することができる。	ねらいに沿った指導が出来る。	ねらいに沿った指導をする努力が見られない。
記録	ねらいに沿って、子どもとのやりとりを詳細に記録し、子ども理解出来る。	ねらいに沿って、子どもとのやりとりを詳細に記録できる。	ねらいに沿って、子どもとのやりとりを記録できる。	ねらいに沿った子どもとのやりとりを書く努力が見られない。

授業の内容・計画、及び事前事後学修の内容・学習時間（分）

<p><内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所の役割や機能の具体的展開 <ol style="list-style-type: none"> (1) 養護と教育が一体となって行われる保育 (2) 保育所の社会的役割と責任 2. 観察に基づく保育理解 <ol style="list-style-type: none"> (1) 子どもの心身の状態や活動の観察 (2) 保育士等の動きや実践の観察 (3) 保育所の生活の流れや展開の把握 3. 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携 <ol style="list-style-type: none"> (1) 環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育の理解 (2) 入所している子どもの保護者支援及び地域の子育て家庭への支援 (3) 地域社会との連携 4. 指導計画の作成、実践、観察、記録、評価 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育の全体的な計画に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解 (2) 作成した指導計画に基づく保育実践と評価 5. 保育士の業務と職業倫理 <ol style="list-style-type: none"> (1) 多様な保育の展開と保育士の業務 (2) 多様な保育の展開と保育士の職業倫理 6. 自己課題の明確化 <p><実習日程> 「保育実習Ⅱ（保育所）」10日間・・・2年次8月または9月</p> <p><準備学習> 事前事後指導として「保育実習指導C」授業内で行う。</p>

事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。
また、事前事後学修としては、次回までの課題プリント(レポート)をまとめることになる。

成績評価の方法・基準

定期試験は、実施しない。その他の評価配分は、以下のとおりである。
各実習先の評価、実習生自身の自己評価を含む養成校による評価を合わせて行う。（100%）
（実習先からの総合評価が不可の場合は、幼児教育学科専任教員一同の協議で決定する）

課題に対してのフィードバック

実習記録及び指導案を評価・確認し、返却する。

教科書・参考書

教科書：なし
参考書：「これで安心！保育指導案の書き方」 開 仁志編著 北大路書房
参考書：「実習の手引き」 金城大学短期大学部 毎回使用します。